

平成25年第11回定例教育委員会

平成25年11月22日(金)午後1時32分
江別市教育庁舎 大会議室

出席者	委員長	長谷川 清 明	説明員	教育部長	佐藤 哲 司
	委員	相馬 範 子		教育部次長	斉藤 俊 彦
	委員	上野 聡 志	学校教育支援室長		
	委員	郷 早 見		苅谷 正 樹	
	教育長	月 田 健 二	総務課長	萬 直 樹	
			総務課参事	三 富 一 義	
			学校教育課長	伊藤 忠 信	
			学校教育支援室参事		
				浦田 和 秀	
				金子 武 史	
			給食センター長	福井 洋	
			対雁調理場長	鈴木 正 春	
			生涯学習課長	岩 渕 淑 仁	
			生涯学習課主幹	渡 辺 美 登 里	
			情報図書館長	大 村 勇 二	
			郷土資料館長	小 林 則 幸	
			記録員	総務課総務係長	近 藤 澄 人
			傍聴者	2名	

1 報告事項

- (1) 平成25年度中学生国際交流事業について
- (2) 統合校の学校名募集実施について

2 審議事項

平成25年議案第39号

平成26年度江別市一般会計教育予算要求案について

平成25年議案第40号

江別市立小学校及び中学校に設置する特別支援学級の通学付添費の支給に関する規則の一部を改正する規則の制定について

3 その他

○各課所管事項について

(1) 平成26年度給食費の改定について

○次回教育委員会予定案件について

○平成25年第12回定例教育委員会の日程について

会 議 録

長谷川委員長	<p>(開会)</p> <p>それでは、ただいまから、平成25年第11回定例教育委員会を開会いたします。本日の議事日程は配付のとおりであります。</p> <p>会議に先立ち、本日の会議録署名人を上野委員さんをお願いいたします。それでは議事に入ります。</p> <p>1の報告事項(1)平成25年度中学生国際交流事業についての報告を求めます。岩渕生涯学習課長をお願いします。</p>
岩渕生涯学習課長	<p>平成25年度中学生国際交流事業についてご説明いたします。報告事項(1)の資料をご覧ください。</p> <p>今年度の事業につきましては、12月5日から12月15日まで11日間での実施を予定しております。</p> <p>今回の訪問団のメンバーにつきましては、中段に記載のとおりであります。団長として、第一中学校の助清さとみ先生に生徒の引率・指導をお願いし、全体調整を江別市英語指導助手のロビン・ウェグナー氏をお願いしております。参加者は、中学2年生が3名、3年生が3名の合計6名であります。各参加者は、今年度の派遣割当てに該当する中学校からそれぞれ推薦をいただいて決定したものでございます。</p> <p>行動予定は裏面に記載のとおりですが、訪問する生徒については、12月6日から12月11日までの6日間、各家庭にホームステイをし、家庭生活を体験するとともにゴードンラッセル中学校への体験入学により、同年代の生徒との交流を行います。また、最終日には1日小旅行を行い、大自然に触れたり、文化に触れ、国際理解や国際感覚などの見聞を広めるプログラムとなっております。</p> <p>8月28日に第1回目の事前研修会を行い、自己紹介の中でそれぞれの研修事業に臨む思いや意欲を発表し合ったのち、訪問計画の確認や役割分担、歓迎交流会での発表内容などを確認しました。事前研修会は9回行い、本日午後4時30分に市長への出発のあいさつを行い、12月5日の出発を迎えることとなっております。以上です。</p>
長谷川委員長	<p>ただいま報告のありました平成25年度中学生国際交流事業について、質問等がございましたらお受けします。</p>
相馬委員	<p>毎年、お互いの国々で交流して、もう20年近くになると思います。校長先生は、引率者として行かなくなったんですね。</p>
岩渕生涯学習課長	<p>はい。</p>
相馬委員	<p>ということは、これは英語科の先生ですね。あと、ロビン・ウェグナーさんは新しい方ですか。経歴を教えてください。</p>
伊藤学校教育課長	<p>もともと、平成19年くらいにJETで来まして、中学校の指導助手をしていました。JETは、更新が最大5年間になっており、5年を経過したあとは本人が江別市に残って指導したいということと過去の経験を踏まえ、江別市として、是非ロビン・ウェグナーさんの経験を生かしてもらおうということで、現在は小学校英語の指導助手をしております。</p> <p>今回、グレシャムとの交流に当たりまして、ロビン・ウェグナーさん自身がオレゴン州の出身でありますので、そういうことを踏まえて小学校英語の指導助手であります。同行していただくということにしました。以上です。</p>
相馬委員	<p>そうしたら、経験としては6、7年あるということですね。</p>
伊藤学校教育課長	<p>江別市内では、小学校と中学校を合わせて、7年ほどの経験があります。</p>
相馬委員	<p>今、そこでロビンさんにお会いしたんですが、ロビンさんは江別市の職員ですよ。</p>
佐藤教育部長	<p>ロバートのことですか。</p>
相馬委員	<p>ロバートさんは市の職員ですか。</p>
佐藤教育部長	<p>ロバートさんは、江別市の非常勤職員で、国際交流員でございます。以上であります。</p>
相馬委員	<p>分かりました。</p>
長谷川委員長	<p>ほかはいかがですか。</p>
上野委員	<p>生徒一人当たりの旅費は、だいたいどのくらい掛かるのですか。</p>
岩渕生涯学習課長	<p>全体的な資料は今ありませんが、参加される方の負担金としては10万円程度を頂いております。</p>

<p>長谷川委員長</p> <p>金子学校教育 支援室参事</p>	<p>それでは、本報告については終了してよろしいですか。 (一同了承)</p> <p>次に、報告事項(2)統合校の学校名募集実施についての報告を求めます。金子参事お願いします。</p> <p>統合校の学校名募集実施について、ご報告いたします。</p> <p>前回の定例教育委員会で、江別小学校・江別第三小学校統合校の学校名募集の概要についてご説明しましたが、今月の統合校準備委員会において、資料のとおり募集要領が決定しました。</p> <p>募集期間は、12月10日から来年の1月31日までであり、応募方法は、郵送、ファクス、メールのほか、持参の場合はコミュニティセンター、郷土資料館、教育委員会に提出することができます。また、両校の児童は学校へ提出することもできます。</p> <p>資料の裏面が応募用紙となっており、応募する校名やその理由、応募者の氏名、学校との関わりなどを記載していただくものです。</p> <p>なお、周知方法については、この募集案内を12月10日発行予定の統合校準備委員会だよりに掲載して、校区内へ周知するほか、広報えべつやホームページも活用し、広く募集するものとします。</p> <p>募集終了後のスケジュールについては、3月頃までに応募されたアイデアをもとに、統合校準備委員会で協議を行い、校名案の選定結果を教育委員会へ報告いただく予定です。以上です。</p>
<p>長谷川委員長</p> <p>上野委員</p>	<p>ただいま報告のありました統合校の学校名募集実施について、質問等がございましたらお受けします。</p> <p>質問ではありませんが、この申込み用紙の一番下に、米印とアンダーラインで、統合校にふさわしい学校名のアイデアを募集するものであり、応募された数によって学校名が決まるわけではありませんとなっていますが、太字が何かにして、もう少し強調したほうがいいかなと思います。</p>
<p>長谷川委員長</p> <p>相馬委員</p> <p>金子学校教育 支援室参事</p>	<p>ほかはいかがですか。</p> <p>子供たちや江別市在住の皆さんなどが、いろいろな学校名を応募すると思いますが、選定される方はどなたですか。</p> <p>募集が終了した後、まず、応募された校名のアイデアを統合校準備委員会にお示しします。統合校準備委員会では、その応募されたアイデアから、準備委員会としての校名案を選定します。その選定された校名案を教育委員会に報告して、教育委員会で協議をいただくという流れになります。</p>
<p>相馬委員</p> <p>金子学校教育 支援室参事</p> <p>長谷川委員長</p>	<p>こちらで、最終の決定をすると言うか、見させていただくということですか。</p> <p>こちらで協議をしていただいて、その後、学校設置条例の改正ということになります。</p> <p>それでは、本報告については終了してよろしいですか。 (一同了承)</p> <p>続いて、2の審議事項に入ります。</p>
<p>佐藤教育部長</p>	<p>平成25年議案第39号平成26年度江別市一般会計教育予算要求案についての説明を求めます。佐藤教育部長お願いします。</p> <p>本件は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条、地方公共団体の長は、歳入歳出予算のうち、教育に関する事務に係る部分その他特に教育に関する事務について定める議会の議決を経るべき事件の議案を作成する場合においては、教育委員会の意見をきかなければならない、この規定に基づく教育委員会の意見聴取の前段として、教育予算要求の主な内容をご審議いただくとするものであります。</p> <p>いよいよ、学校等施設の耐震改築も本格的な着工となるため、予算要求額が大幅に増大することが予想されます。</p> <p>経常費は財政当局へ提出済みではありますが、臨時費は予算要求期限前のため、要求金額や内容に今後変更が生じる場合がありますことをご承知置きください。</p> <p>予算要求方針につきましては次長から、各事務事業につきましては所管課長から、順次ご説明申し上げます。</p>
<p>斉藤教育部次 長</p>	<p>では、私から、資料の2ページに記載しております来年度の教育予算要求方針についてご説明いたします。</p>

齊藤教育部次長	<p>上から10行目以降に触れておりますけれども、江別市では、来年度から、第6次の総合計画であります「えべつ未来づくりビジョン」がスタートします。</p> <p>その基本構想部分において、まちづくりの基本理念として、「安心して暮らせるまち」、「活力のあるまち」、「子育て応援のまち」、「環境にやさしいまち」の4つの柱を掲げ、政策を進めていく考えであります。このうち教育委員会に最も関係の深い基本理念は、「子育て応援のまち」です。</p> <p>国全体の人口が減少する中で、江別市の人口も平成17年をピークに減少に転じていますが、活力のある社会を維持するには、子育て世代の転入を促し、江別で子供を産み育ててもらい、定住人口を増やすことが大変重要になってまいります。</p> <p>そのためのベースとして、総合計画のスタートに合わせて、学校教育基本計画、社会教育総合計画、スポーツ推進計画の3つで構成する江別市の「教育振興のための計画」も26年度からスタートさせるべく、現在策定を進めているところです。その上で必要となる教育施策を推進する方針のもとに予算要求を行います。主要なものは記載の5点であります。</p> <p>1点目は、全市的に取り組んでいる安全・安心の確保のため、学校の校舎・屋体のほか、市民体育館などの社会体育施設の耐震化を進めていこうというものです。</p> <p>2点目は、学校が災害時の避難所にもなることから、トイレの洋式化をさらに推進していこうとするもの。</p> <p>3点目は、学力向上には基礎学力の定着が大切なことから、引き続き退職教員等による学習サポートを推進するほか、授業そのものの分かりやすさを手助けするために電子黒板など、ICT化を進めていこうというものです。</p> <p>4点目は、特別支援教育の推進の一環で、施設のバリアフリー化を進めようとするもの。</p> <p>5点目は、生涯学習活動、文化・芸術活動の振興を図るため、公民館や文化ホールの維持・補修を適切に行っていこうというもので、詳しくはそれぞれの所管課長等から順次ご説明いたします。</p>
萬総務課長	<p>それでは、各課長の説明につきましては資料の綴りの順に行います。まず、総務課でございます。資料の3ページをご覧ください。現在、新年度事業として予定をしております総務課の主な事業についてご説明いたします。</p> <p>まず、私立幼稚園や私立高校への補助金は、江別市私立幼稚園連合会や札幌地区私立中学高等学校PTA連合会から要望を受けているところであり、厳しい財政事情の中で現行補助金額を確保いたします。</p> <p>次に、学校の校舎屋体耐震化事業といたしまして、江別第二小学校の部分改築工事を平成25年度に引き続き実施し、江別太小学校、江別第一中学校の改築工事には着工します。</p> <p>また、江別小学校・江別第三小学校の統合に向けては、統合校に係る改築実施設計等を行います。さらに、屋内体育館の非構造部材の耐震対策を計画的に進めてまいります。</p> <p>このほか、学校施設整備事業といたしまして、洋式化率の低い小中学校のトイレ改修工事を実施するなど、学校からの要望を踏まえながら、計画的に快適な学習環境を整備してまいります。以上です。</p>
伊藤学校教育課長	<p>次に、学校教育課所管分の主要事業についてご説明いたします。資料の4ページをご覧ください。</p> <p>学力向上関係では、子供たち一人ひとりの確かな学力の定着を図るため、小中学校学習サポート事業において、来年度から新たに中学校において放課後学習にも取り組みます。</p> <p>さらに、教材用需用費において、各学年における学力の定着の状況を把握するため、現在小学校3年生・5年生、中学校2年生を対象に実施している市独自の学力調査を小学校4年生、中学校1年生に拡大して実施します。</p> <p>小学校外国語活動支援事業では、外国語が既に必修となっている小学校5・6年生のほか、すべての小学校3・4年生についても、外国語活動を推進します。</p> <p>体力向上関係では、児童生徒体力向上事業において、市内の小学校に北翔大学の教授と学生を派遣し、各学校の状況に応じた子供たちの体力向上に取り組みます。</p> <p>ICT関係では、情報教育推進事業において、ICT環境整備のため、学校からの配置要望を受け、小中学校の全学級への電子黒板の整備を行います。これらのほか、学校図書室事業、社会人による教育活動等支援事業、キャリア教育推進事業を継続して実施します。学校教育課分は以上です。</p>

浦田学校教育 支援室参事	<p>続きまして、特別支援教育担当参事所管の主要事業についてご説明いたします。資料の5ページをご覧ください。</p> <p>特別な支援を必要とする児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、本来持てる力が発揮できるように、特別支援学級生活介助事業では生活介助員の配置や特別支援学級の運営に必要な教育環境の整備を進めていきます。</p> <p>特別支援教育推進事業では、特別支援教育コーディネーター、特別支援教育補助員の配置や研修会の開催、専門家チームの巡回相談など、引き続き必要な支援を行います。</p> <p>また、野幌中学校に新入学する肢体不自由児童、保護者及び学校からの要望を踏まえ、新たにエレベーターを設置し、肢体不自由特別支援学級を開設するなど、教育環境の整備を進めていきます。以上です。</p>
金子学校教育 支援室参事	<p>続きまして、資料の6ページをご覧ください。学校教育支援担当参事所管の主要事業についてご説明いたします。</p> <p>いじめや不登校、問題行動等の未然防止や早期発見、早期対応のための事業として、問題行動対策事業やいじめ・不登校対策事業を継続し、ネットトラブルへの対策も進めていきます。</p> <p>また、悩みを抱える子供たちや保護者のため、スクールカウンセラー事業や「心の教室」相談事業により、相談体制の充実を図るほか、子供たちが抱える様々な問題の解決を図るため、引き続き、スクールソーシャルワーカー事業を実施します。</p> <p>また、学校適正配置推進事業については、引き続き、江別小学校と江別第三小学校の統合に向けた準備を進めます。以上です。</p>
福井給食セン ター長	<p>資料の7ページをご覧ください。給食センターの主要事業についてご説明いたします。</p> <p>食育の推進については、江別市学校給食食育運営委員会において、江別市の公立小中学校における食育の推進として取りまとめましたので、各小中学校に今後の食育の在り方、進め方などの基本的な方向性を示します。</p> <p>その内容としましては、一つ目として、学校における食育推進のため、新たな組織づくりや既存組織の活用など校内体制の充実を図ること。</p> <p>二つ目として、学校における食に関する指導の全体計画の改善・充実を図ること。</p> <p>三つ目として、学校における食育推進の取組として、七つの具体的な例を示しています。</p> <p>また、学校給食事業では、安全・安心な給食の提供を継続してまいります。以上です。</p>
岩淵生涯学習 課長	<p>続きまして、生涯学習課所管の主要事業についてご説明いたします。資料の8ページをご覧ください。まず、生涯学習係所管になります。</p> <p>生涯学習に関する事業につきましては、多種多様化している市民ニーズに対応するため、知的資源の有効活用を図るとともに、効果的な学習機会の確保など、生涯にわたって学ぶことのできる環境づくりに努めます。</p> <p>25年度との変更点ですが、まず、えべつ市民カレッジ事業であります。これは、市内4大学で開催している市民公開講座や従来から実施しているふるさと江別塾を総合的に市民に情報提供することによって、幅広い年齢層に応じた学習機会を確保しようとするものです。</p> <p>次に、江別市PTA連合会補助金であります。これは、北海道PTA連合会の26年度負担金増額が予定されており、市P連からの要望を受け、保護者負担の軽減を図るため、市P連への補助を上乗せするものです。</p> <p>文化振興に関する事業につきましては、優れた文化・芸術作品鑑賞機会の充実を図るとともに、市民団体が主体的に行う舞台芸術や展示発表や次代を担う子供たちを育む参加創造型の取組を支援し、市民と共に創造する文化活動の充実にも努めます。</p> <p>26年度は、市民文化ホールの設備機器等を更新し、良好な施設環境づくりに努めるほか、引き続き、全国規模の各種芸術文化大会に出場する者に対し奨励金を支給することにより、文化・芸術活動の振興を図ります。</p> <p>次に、9ページをご覧ください。青少年・スポーツ振興係所管分です。</p> <p>まず、青少年に関する事業ですが、子供の可能性を引き出す教育を実践するため、基本的な生活の場である家庭・学校・地域と連携し、主体性や社会性を育むボランティア活動・自然体験・社会体験など各種事業を推進するほか、活動団体等への支援を通じて子供たちの健全育成を図ります。</p> <p>スポーツ振興に関する事業につきましては、平成26年度から始まる第5期江別市スポ</p>

岩淵生涯学習課長	<p>一ツ推進計画において、三つの基本目標を掲げ、青少年の体力向上、人や地域の交流、活力ある長寿社会の形成などに向けて、市民が日常的にスポーツを楽しむ機会の充実を図ります。</p>
大村情報図書館長	<p>また、社会体育施設利用者の安全確保のため、適切な維持管理を継続するとともに、市民体育館の耐震改修工事を実施し、スポーツ活動の環境整備に努めます。以上です。</p> <p>続きまして、資料の10ページをご覧ください。情報図書館所管分の主な事業についてご説明いたします。</p>
小林郷土資料館長	<p>読書普及活動事業では、子供たちが絵本や童話に親しみ、心豊かな感性を育むとともに、保護者に対しても読書への関心を高める機会として、「おはなし会」を開催いたします。</p> <p>また、子どものための読書環境整備事業では、小中学校の学校図書館へ司書を派遣し、環境整備を継続するとともに、学校からの要望を踏まえながら、朝読書や調べ学習などの教育活動の支援を通じて、児童生徒の学力向上を図ります。以上です。</p>
長谷川委員長 郷委員	<p>資料の11ページをご覧ください。郷土資料館の主な事業についてご説明いたします。</p> <p>野幌太々神楽伝承会補助金は、同会から伝統芸能保存と普及活動への支援要望を受け、現行補助金額を要求するものです。</p> <p>セラミックアートセンター企画展開催事業につきましては、開館20周年を迎えるに当たり、夏の時期に目玉となる展覧会を開催いたします。内容は、明治末期から昭和前期に北海道から沖縄まで各地で収集された「坂口コレクション」を借用した湯呑み展を実施いたします。また、新たに美瑛町で実施しているこども陶芸展とタイアップした巡回展を実施いたします。</p> <p>次に、セラミックアートセンター改修事業といたしまして、2か年かけて実施した屋上防水工事を終え、次年度は工房のある研修棟のトップライト防水改修工事などを予定しています。以上です。</p>
浦田学校教育支援室参事 郷委員	<p>ただいま説明のありました本件に対する質問等がございましたらお受けいたします。</p> <p>特別支援教育ですが、野幌中学校に新たにエレベーターを設置するということですが、新年度にそういう生徒が入学するということですか。</p> <p>保護者の方から確認がとれているのは2名ですが、新年度、東野幌小学校から野幌中学校に自力歩行ができない、肢体不自由の児童が入学する予定であります。</p> <p>エレベーターの設置について、2階の教室に移動するだけのことでしょうか。お手洗い等はどうなるのですか。</p>
浦田学校教育支援室参事	<p>肢体不自由の教室につきましては1階に設置する予定ですが、中学校の場合、特別教室に移動することがかなりあります。野幌中学校の場合、理科室、美術室等、3階に特別教室が設置されております。階段昇降機では、移動にかなり時間が掛かるということで、複数人の移動の場合、対応が難しいということで、エレベーターの設置を要求するものです。</p>
郷委員 長谷川委員長 浦田学校教育支援室参事 佐藤教育部長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今の件に関連してですが、今の考え方の中では校舎に外付けするということですか。外付けを考えています。</p>
長谷川委員長	<p>学校のバリアフリー絡みで、少し補足させていただきます。第二小学校が最初に改築工事を行うことによりまして、エレベーターが設置されます。これが、江別市においての第一号になろうかと思えます。これに続きまして、来年着工します江別太小学校、それから第一中学校の両校とも、エレベーターを設置します。法律上、義務ということではありませんけれども、私どもは、特定建築物ということで公立の学校であるからには、大規模改修、若しくはこういった改築の際には、エレベーターを設置する必要があるものと考えております。</p> <p>野幌中学校につきましては、そういったことは別に、現在東野幌小学校に肢体不自由の児童は6名、野幌中学校の校区にはもう1校、野幌若葉小学校がありまして、ここに1名いらっしゃいます。野幌中学校の校区内には、過去からの拠点校としての東野幌小学校への集約という経緯もございますので、私どもも随分検討を重ねてまいりましたけれども、将来7名の児童が野幌中学校に進学するというのを考えまして、新たにエレベーターを設置する予算を要求しようとするものでございます。以上であります。</p> <p>今、部長からありましたけれども、私も部長の考えに賛成です。あとで外付けをすると、ものすごくお金が掛かるのですね。以前、北広島市へ学校視察したときに聞かま</p>

長谷川委員長	<p>したけれども、法律上、そういう制約がないにしても、やはり将来的なことを考えると、またこういうことが起きた場合、無駄なお金が掛かるので、今後改築の際には必須条件という形で頑張ってもらいたいと思います。</p>
佐藤教育部長	<p>さらに補足になって恐縮ですが、こういった工事に関して、仮に予算が付いたとしても、すぐに竣工できるものではありませんので、その間は階段昇降機を使って補っていきたいと考えております。以上でございます。</p>
長谷川委員長 上野委員	<p>ほかはございませんか。 来年度に向けて、耐震化などは最終段階に入って行くのではないかとと思うのですが、建物で何十億円掛かるかなどの予算要望額は、どこからか調べてきた中で積算しているのですか。</p>
三富総務課参事	<p>改築校につきましては、既に設計などを終えているものもございます。その中で、積算をして、予定工事額を算出しております。その上で2か年にわたるものですから、それを出来高として分散したものがこの金額でございます。以上でございます。</p>
長谷川委員長 相馬委員	<p>ほかはいかがですか。 今、部長、委員長がおっしゃったように、先ほどのエレベーター設置など施設を利用するに当たって、利便性が高まるものをどんどん学校内に設置することに対しては、私も大賛成です。 今回のこの教育予算要求方針は、今までと違って非常に見やすいのですよね。ページ数もすごく少ないし、細かいことは記述されていないので、私としてはすごく見やすかったです。今まではこんなに膨大で、細かいことまで記述されていましたよね。今回は時間を掛けずに見ることができました。</p>
佐藤教育部長	<p>この教育予算要求案には、教育の方針、ビジョンが出ていると思います。来年度から江別の未来づくりビジョンとして、子育てを応援するまちを柱の一つに掲げていますが、どういこうことをして、教育のまちとして、魅力あるまちということを簡単にうかがい知ることができなければならないと思っています。この中で、子育てをする方々が江別市に移住することまで、そこまで魅力あふれるまちにしていきたいという思いが書かれている以上、やはり予算要求の中に、どれがそういうものに当たるのか。そして、予算要求の中のどこにその思いが反映されているのか教えてください。</p> <p>組立てとしては、何種類かの向きがあります。一つはえべつ未来づくりビジョン、つまり、次の総合計画には未来づくりの戦略ということで、特出しされている部分がございます。これは、私どもの意思の反映というよりも、別のステージですが、そこには教育委員会、教育部として振付けたものということではなく、まだ確定していないので、ここで言っているかどうか分かりませんが、生涯学習系で現在で言うところのふるさと江別塾のようなものが振付けられています。</p> <p>私どもは、そういったこともございますけれども、今強く意識しているものを申し上げて、それを考え方ということでご理解いただきたいと思います。</p> <p>まず一つには、学校の改築問題でございます。ソフト部門も大事ではございますけれども、きちんとした教育環境のベースになるもの、これは学校であり、グラウンドであるという考え方に立っておりますので、これの耐震性の確保、安全・安心を確保するということが、何よりも第一に来なくてはならないと、私は考えております。</p> <p>ソフト部門におきましては、保護者の期待は率直に申し上げて、学力向上にあると思っております。学力、体力が高い位置にあるということが、保護者の期待であろうと思えます。これは一本の事業で果たすということには当然なりませんので、学習サポート事業はもちろんですけれども、先ほど課長から触れましたが、これも査定されたらの話になりますが、新たに補習的な事業を起こすということになります。</p> <p>もう一つは国の流れもありますので、低学年でやるのがいいのかどうかという論議もありますが、江別はもともと英語は低学年から活動していたということがあり、全校一律になっていない部分があるので、ここに英語指導助手を新たに雇用、増員して、外国語活動も強化していきたいと、学校教育に限れば考えているところでございます。</p> <p>そして、社会教育系、生涯学習系で申し上げますと、やはり、収容避難施設であります市民体育館をはじめとする施設の耐震改修が、私としては第一に優先されるべきものと考えております。</p> <p>今年度、私どもの要求が初めて受け入れられて、正確に言うと昨年度の2月補正ですけ</p>

佐藤教育部長	<p>れども、国において社会体育施設についても、耐震改修に補助をいただけるようになりました。そうしたことから、私どもとしては何としても、一年でも早く、体育施設の耐震化を進めたいと考えているところでございます。</p>
長谷川委員長 上野委員	<p>ソフト部門としましては、生涯学習系はなかなかご理解いただけませんけれども、私どもは、基本的に市民の皆さんの多種多様な活動を支援するという立場に立っています。ともすると、市教委で何か特別な事業に取り組んで、そういった力を加えていくべきではないかという論議も時々あるんですけども、私どもはスポーツに偏ることなく、文化に偏ることなく、音楽に偏ることなく、絵画に偏ることなく、皆さんの多種多様な要求に、学習意欲にこたえていくということを基本ベースにしたいと思っております。</p> <p>また、郷土資料館側ではなく、生涯学習課で行ってありましたふるさと江別塾については、少し大学と連携を強めてリニューアルをして、生涯学習系の一つの目玉事業にしていこうと考えています。これは先ほど少し申し上げた未来戦略とも若干関わるんですけども、そういったことで各大学とも協議を進めている最中でございます。</p> <p>何か一点の特出しということではご説明できませんが、ハード・ソフトと合わせて、江別に住みたい、住んで良かったと、子供を育てる三十代から四十代の世代が江別に転入していただけることを期待して、この予算を編成していこうと、要求していこうとするものでございます。以上でございます。</p>
佐藤教育部長	<p>ほかはいかがでしょうか。</p> <p>少し話が脱線してしまいましたが、学校教育支援担当で、インターネットや携帯電話によるトラブルで、各学校でそれぞれやっているとは思いますが、やってもなかなか事故が減らない部分を考えて、少し全市的にやってみるとか、考えていただきたいと思いました。</p> <p>それともう一点ですが、給食センターの関係で、今、巷では食品偽装でバナメイエビを芝エビと表記していたということかあります。給食センターに対して、そういうものを使っていないだろうかという問合せはありますか。</p>
福井給食センター長	<p>前段の部分で、パソコンとかスマートフォンですとか、特にラインの問題は、私どもも当然意識させていただいております。教育長の指示もございましたので、教育研究所が主催して、既に19日に情報モラル研究会を実施しておりますし、今後も研修を行う予定があります。来年度からということではなくて、既に今年度も含めて、かなり真剣に受け止めて研修をしていこうと考えております。給食については、給食センター長から答弁します。</p>
長谷川委員長	<p>基本的には、食材の産地は明らかにしています。新聞等で問題になっておりますのは、産地は明らか、あるいは物は明らかなのに、提供する側の表示の問題だと思えます。給食センターへの問合せは現在のところ聞いておりません。もし、聞かれれば、私どもは明らかにできますので、食品の細かい調味料とかになりますと難しい部分もありますが、原材料につきましては、野菜はどこですとか、お肉はどこですということは明らかにすることはできます。</p>
浦田学校教育支援室参事	<p>ほかはありませんか。それでは、平成25年議案第39号平成26年度江別市一般会計教育予算要求案についてを承認することにご異議ありませんか。</p> <p>(一同了承)</p> <p>それでは、そのように承認いたします。</p> <p>次に、平成25年議案第40号江別市立小学校及び中学校に設置する特別支援学級の通学付添費の支給に関する規則の一部を改正する規則の制定についての説明を求めます。浦田参事お願いします。</p> <p>平成25年議案第40号江別市立小学校及び中学校に設置する特別支援学級の通学付添費の支給に関する規則の一部を改正する規則の制定について、私から説明させていただきます。</p> <p>平成25年第6回定例教育委員会において、国の特別支援教育就学奨励費の支給対象者が補助要綱の改正により、小学校または中学校に在籍する学校教育法施行令第22条の3に規定する障がいの程度に該当する児童生徒にも拡大されたことに伴い、市の単独事業である通学付添費についても、この拡大の対象とされた児童生徒の付添いをした場合、その保護者に支給することが適切であることから、江別市立小学校及び中学校に設置する特別支援学級の通学付添費の支給に関する規則の一部改正を次回以降の教育委員会に提案す</p>

浦田学校教育 支援室参事	<p>ることを報告させていただいております。 資料6ページをご覧ください。新旧対照表になります。 標題、第1条及び第2条は、支給対象者が普通学級に在籍する学校教育法施行令第22条の3に規定する障がいの程度に該当する児童生徒にも拡大したことから、関係規定の整備を行っております。 第2条第1号及び別記様式（第3条関係）は、字句の整備を行っております。 また、この規則は公布の日から施行し、国の補助要綱の適用月日に合わせ、平成25年4月1日から適用することとしております。 なお、現在、江別市の小学校及び中学校の普通学級には、学校教育法施行令第22条の3の規定で定める特別支援学校に入学可能な障がいの程度に該当する児童生徒は在籍していません。</p>
長谷川委員長 上野委員	<p>国においては、共生社会の形成に向けて、インクルーシブ教育システムの構築を推進するため、特別支援教育の諸制度の改正を進めており、その一つとして、この国の補助要綱の改正がされております。説明は以上です。 ただいま説明のありました本件に対する質問等がございましたらお受けします。 付添費ということで、1キロメートル以上ということなんですけれども、このキロ数の確定に当たっては、申請者が申告してくる距離で決めてしまうのか。それとも、申請を受けた段階で、行政がキロ数の確認を行うのか。決定方法について教えてください。</p>
浦田学校教育 支援室参事 長谷川委員長	<p>申請があった際、こちらの方で現住所と学校の距離を確認させていただきまして、算定しております。 ほかはいかがですか。それでは、平成25年議案第40号江別市立小学校及び中学校に設置する特別支援学級の通学付添費の支給に関する規則の一部を改正する規則の制定についてを承認することにご異議ありませんか。</p>
福井給食セン ター長	<p>（一同了承） それでは、そのように承認いたします。 続いて、3のその他に入ります。各課から何か報告することはございませんか。 平成26年度の給食費の改定についてであります。給食費につきましては、平成22年4月に値上げして以降、1食単価を据え置いておりますが、それ以後の食材の値上がりと平成26年4月からの消費増税により、学校給食会計において収支不足となることが予想されております。 このことから、来週開催されます江別市学校給食会理事会におきまして、平成26年度給食費の改定について協議することとなっております。理事会で給食費の値上げが承認された場合、次回の教育委員会において報告させていただきますので、よろしく願いいたします。</p>
長谷川委員長	<p>それでは、今の説明のとおり、給食費の改定については次回の教育委員会に報告がなされるということでよろしく願いいたします。</p>
萬総務課長	<p>次に、次回定例教育委員会予定案件及び日程について、説明願います。 次回の教育委員会の案件でございますが、報告事項として、平成25年第4回江別市議会定例会の一般質問について、平成26年成人のつどいの開催について、平成26年度給食費の改定について、審議事項として、平成24年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書について、平成26年度江別市一般会計教育予算要求案についてなどを予定しております。</p>
長谷川委員長	<p>また、次回、定例教育委員会の日程でございますが、12月25日水曜日、午後2時からと考えておりますが、各委員のご都合等はいかがでしょう。 今ありましたように、次回の定例教育委員会を12月25日水曜日午後2時からということで、皆様のご都合はいかがですか。</p>
	<p>（一同了承） では、以上をもちまして、第11回定例教育委員会を終了いたします。 （閉会）</p>

終了 午後2時28分

署名人（委員長） 長谷川 清明

署 名 人 上野 聡志